

ともに先へ、先へ。

民主党 参議院比例区第65総支部総支部長

参議院議員 **えさきたかし**



えさきたかしの「がんばるバイ」No.25

衆議院解散。改めて政党政治の重要性を問う

11月16日午後4時、衆議院が解散した。各地元はすでに選挙戦で慌ただしいが、相次ぐ離党者、新党の連日目まぐるしい離合集散…。12月4日の公示を前に、「真の主役」たる有権者の視線はいったい何処を向けばよいのか。また、支持の輪を広げんとする、組織労働者・生活者の目線と熱は？

実は、昭和初期の日本にも二大政党時代があった。互いに保守政党でありながら、民政党は満州撤退、ロンドン軍縮条約賛成、金本位制維持、政友会は満州事変容認、金本位制離脱と、政策は真逆。選挙ごとに政権が交代し、国民が混乱する中、軍部官僚が内閣での影響力を強め、5.15事件、2.26事件を誘発、やがて取り返しのつかない戦争へと、我が国は足を踏み入れて行く。政治が混乱すればするほど官僚は力を持ち、政治の実権を持つことになる。

長きにわたる自民党政治から、民主党が政権を奪取した2009年。あの時民主党は、新自由主義の小泉政権の流れに対し、社会民主主義的政策で国民に選択肢を提示した。政権与党となって3年、マニフェストが実現できたこと、道半ばであること、実現できなかったことははっきりしている。方針の一定の修正は止むを得ない。むしろ国民が許容する範囲内で政策の違いを主張し合う土俵で争う時期が来たのではないか。選挙戦略ありきで、所属政党とたもとを分かち、あるいは集まるということは、いたずらに国民生活を混乱させることにほかならない。

民主党への厳しいご批判には真摯に向かい合わなければならない。しかし、政党政治を諦めることをさせてはならない。自民党の安倍総裁は、「労働組合が支持する政党との連立などあり得ない」と明言する。労働中心の福祉型社会を目指すために組織された労働者を、社会の悪と決めつけ、さらには総裁選挙の候補者すべてが集团的自衛権の行使を推進し、「国防軍」を公約に挙げるなど、政権党であった頃に比べ遥かに右傾化した自民党。民主党へのアンチテーゼと、政党乱立の混乱に乗じ、政治を遡行させてしまうのか。

一方で、いわゆる「第三極」の中には、我が国の労働者・生活者をかつてないほど疲弊せしめた小泉政権の市場原理主義、新自由主義を、さらに強かに押し進めようとする勢力が台頭している。こうした政党に、これからの日本のキャスティングボードを握らせてよいのか。



今、時流は3年前に戻る危機でなく、有権者の混乱を尻目に軍部官僚が一気に戦争への舵を切った、あの時代に遡る危機に向かおうとしている。働く者、生活者の声を、直接伝えることのできる民主党を、苦しいけれど皆さんの直の声で矯め、育てながら、政党政治の正道を進むことが大切。このことをより多くの有権者に理解してもらうために、残された時間いっぱい奔走しようと思っている。

2012年12月1日 えさきたかしの「がんばるバイ」No.25